

## 研修 NOW! ①

## 授業力向上を目指して



後期に入り、初任者研修、若手5年目研修、中堅教諭等資質向上研修では、公開授業研修を実施しています。初任者研修では、授業後の協議会を受講者が主体となって進め、よさを認め合うだけでなく、改善すべき点について意見を出し合い、互いに高め合う姿が見られます。若手5年目研修では、一部受講者の指導案検討・授業公開に「新潟市マイスター」から、中堅教諭等資質向上研修では大学の先生方からご指導いただくことで、教科の専門的な視点から自身の授業の在り方を振り返る機会となっています。

それぞれのキャリアステージにおける公開授業研修を一つのきっかけにして、先生方にはより一層の授業力向上を図り、新潟市の子どもたちの豊かな学びを実現していってほしいと願っています。

### 《初任者研修》



#### 《授業者の声》

公開授業と協議会を通して、学級経営や授業づくりにおいて多面的な学びがありました。また、子どもが楽しいと思う授業を目指し、日々授業をよりよくしようとする事ができたので、長期的に成長することができました。



### 《若手5年目研修》



#### 《授業者の声》

指導者のマイスターの先生からは時間をかけて丁寧にご指導いただきました。課題設定のタイミングやまとめの仕方について、柔軟な形で構想することの大切さもご示唆いただきました。

### 《中堅研13年グループ》



#### 《授業者の声》

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、授業を1時間単位で完結する形で構成せず、一つの課題に対して複数時間をかけて解決を目指す授業を構成しました。その際に「個の学習」と「協働の学習」の時間をそれぞれ設けることで、生徒の主体的な学びの姿勢が見られました。また、生徒が自分にはなかった新たな視点での考えや、同じ視点でも異なる考えに触れる機会などが表出し、深い学びにつながった点が成果としてあげられます。

# 研修 NOW!②

# 研修講座を紹介します!!

New

## 「子どもの<自律>と<尊重>を育む」これからの学校と教師

横浜創英中学・高等学校の工藤勇一校長先生を講師にお招きし、オンラインにてご講演をいただきました。100名を超える先生方が受講しました。工藤校長先生の講義の内容を一部紹介します。『主体性』と『当事者意識』がキーワードでした。

- ☑ 日本の教育は大人が手をかけすぎている。「自律した生徒を育成すること」が本来の教育の目的であるはずが、その目的が見えなくなっている。
- ☑ 人は皆、生まれたときには主体性をもち合わせている。しかしながら、後天的に大人によってその主体性が奪われている。学び方は人それぞれである。だからこそ、授業では「教える」から「学ぶ」へ転換していかなければならない。
- ☑ 主体性に加えて足りないものは「多様性の中で生きる」ということ。日本の教育では、対立を起ささないような教育をしている。教室では「みんな仲良く」という勘違いがある。学校とは多様性の中で民主主義を学ぶ場であり、その中で当事者意識のある生徒に育てたい。
- ☑ 創英中学・高等学校で今やろうとしているのは「子どもたちに学校（運営）をあげる」ということ。Agencyの育成を目指し、生徒を学習活動・学校運営の主体者に。



### 《受講者の声》

いかに自分が目の前のことだけ見ていたのかに気付かされました。世界における日本の立ち位置や人口減少の現状を聞いて、これから生徒が社会で生きていくためには、従順さではなく自分の頭で考え行動できる力が必要であると分かりました。そんな生徒を育てるために、まずは日々の自分の授業をアップデートし、生徒が自己決定を積み重ねることのできるようにしていきたいです。

## 中堅教諭等資質向上研修 課題演習

中堅研修において、教職経験 10 年目の先生方を対象とした講座です。「学校組織とマネジメント」「ミドルリーダーの役割」について、講義・演習を通して学びました。



### 《受講者の声》

研修の最後にお話していただいた言葉がとても心に残っています。ミドルリーダーとして人とつながることがとても大切なのだと強く思いました。そしてどのようにつなげるのかを戦略的に考えていくことや、ゴールイメージをもって、どのようなステップを踏んでいくのか考えて動ける人になりたいです。人と人が気持ちよく、前向きに働いていける同僚性の高い職場になっていけるように頑張りたいです。



### Q 授業づくりで大切にしてきたこと、大切にしていることは何ですか？

1つ目は「おもしろいと思ったらまずはマネしてみる」こと。教科や学年、校種に関係なく、いろいろな授業を観て、心に刺さったアイデアがあれば、とにかくマネするようにしてきました。もちろんその先生と同じようにはできませんし、その必要もないと思っています。自分なりの味付けをしながら、少しずつ自分のスタイルになっていくものです。

2つ目は「授業でしかできないことをする」こと。コロナ禍を経験したことで、改めてこのことを強く意識するようになりました。目の前に子どもたちがいて、彼らの周りには仲間がいる。子どもたち同士、そして子どもたちと教師とが関わり合ってこそ授業なんだと思います。話は少し変わりますが、昨年、ある先生からアドバイスをいただいて、それまでペア活動の際に当たり前のようにやっていた「ジャンケンによる順番決め」をやめました。こういうなんて事のない場面から、自立した学習者として自分たちで話し合い、調整する力を育てていくことが大切なのだと教わり、心から納得しました。

3つ目は「子どもたちを教科書の向こう側の世界とつなげる」こと。教科書には実に幅広い分野の題材が用意されています。題材を理解した上で、その題材と子どもたち自身の生活や社会とのつながりに目を向けさせるような働き掛けができるかどうかを重要だと考えています。むしろ教科書はほんのきっかけに過ぎず、その先に広がる世界に子どもたちが自分で踏み出したくなるような、そんな授業がしたいといつも思っています。

### Q 授業力向上を目指す若手教師へ伝えたいメッセージをお願いします。

「やってみなくちゃ分からないじゃん」どうすればいいか迷った時には、この言葉を胸にまずはやってみることにしています。これは若手とかベテランとか関係なく、大切なことだと私は思っています。もちろん、何かを始めるにあたっては、しっかりと計画や打ち合わせ、下準備が必要であることは言うまでもありません。ですが「自信がないから」とか「誰もやったことがないから」という理由だけで、チャレンジをしないという選択をしてしまうのは、あまりにもモッタイナイことだと思うのです。“Can I?”ではなく“How can I?”と考えるマインドセット(=成長的マインドセット)を大切にしましょう。

「めんどくさい」どれだけ緻密に計画をしても、入念なシミュレーションをしても、何度も検討を重ねても、この一言で全てが壊れてしまうかもしれません。何かを生み出そうとしたら、大変なのは当たり前です。その覚悟ができたのであれば、「めんどくさい」なんて言葉は使ってはいけないと思います。それよりも、そのプロジェクトを少しでも前に進めるための手立てを、みんなで考えてみませんか。

### Q これからの“マイスター”に求められる力はどのようなものだとお考えですか？

これからのマイスターに求められる力というと偉そうなので、いつも私自身がこんな存在になりたいと願っているものを3つ紹介します。

1つ目は「延長コード」です。延長コードは、それ単体では何もできません。ですが、電化製品とコンセントの間に入って両者をつなぐことで、その機械の力を発揮させることができます。人と人、人とものごとをフレキシブルにつなぐような存在です。

2つ目は「脚立」です。脚立があれば、手が届かない場所に届くようになる。見えない場所が見えるようになる。より広く、より遠くまで見えるようになる。誰かの視野を広げることができるような存在です。

3つ目は「自転車」です。家の中やその周りでしか遊べなかった子どもが、自転車に乗れるようになると、行動範囲がぐんと広がります。それは世界が広がるということです。誰かの世界を大きく広げることができるような存在です。

今年度もオンラインにて科学研究発表会（9月21日・22日）と理科作品展（9月27日～10月4日）を実施しました。どの作品も児童・生徒の熱意や頑張りが伝わってくるものでした。科学研究発表会への参加や理科作品展への出品ありがとうございました。

【第59回新潟市児童生徒科学研究発表会】

校種	部門	出品数
小学校	3年の部	3
	4年の部	11
	5年の部	8
	6年の部	3
中学校	中学校の部	8

【第70回新潟市小・中学校理科作品展】

校種	部門	出品数
小学校	標本の部	15
	模型工作の部	15
	発明工夫の部	5
	その他の部	41
中学校	模型工作の部	1
	その他の部	1



※ 冊子「わたしたちの科学研究 第59集」の申込みが **12月22日(金)** までとなっています。いきいきわくわく科学賞 2023 の応募作品一覧（学校名・研究者名・研究題目等）が掲載されます。上位入賞作品等ぜひご覧ください。

## column 植物資料室

### ヤツデ(八手):ウコギ科

～冬に咲く白い花は、雄花から雌花に変化～

どこにでもあるのにあまり注目されることのない大きい葉が特徴の常緑低木です。大きな葉は、千客万来や魔よけとして庭木や公園などに植えられました。日本原産で19世紀から世界に広がっています。丈夫で大気汚染に強く日陰でも育ちます。

冬に花が咲きます。茎の先に白い小花が球状になり円錐状の花序となります。長期間咲き続けます。花の多くは両性花で、雄花から雌花に次々に変わります。蜜を出し、ハエなどの虫を集め受粉を促します。5月頃に実は黒く熟します。野鳥で広がり海岸林の中でも育っています。昔は空気鉄砲の弾にして遊びました。また、葉は去痰薬や殺虫剤として使われました。

植物資料室データベースでは、栗島などで採集された12点のヤツデのデータを公開しています。

ヤツデの写真はこちらから→  
総合教育センターホームページ内「植物資料室」ページ  
(シリーズ<四季折々の植物>)



総合教育センター  
マスコット まな

### 《植物資料室から一言》

10月に、市民を対象とした植物観察会を実施しました。今回の会場は、秋葉公園でした。5月と10月に実施した事前の調査では、公園内の遊歩道周辺で、100種を超える植物を確認しました。同じ場所でも、季節によって咲いている花が違ったり、葉の色づき方が違ったり、表情は様々です。ところで、植物資料室では、1946年から1968年に採取・収集された秋葉山の植物標本を231種収蔵しています。標本があることで、季節による植物の違いだけでなく、時代による違いも調べることができます。植物標本は事前に予約をいただければ閲覧可能です。お電話をお待ちしています。(TEL:025-250-0135)